

国語科学習指導案

日 時 令和元年 6 月 18 日(火)

1 単元名 「筆者の構成や展開に着目し、その工夫と効果を考えよう」

2 単元の目標

○場面に応じた構成や展開の特徴を考えようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○場面に応じた構成や展開の工夫を考えることができる。

(話すこと・聞くこと イ)

○文章の構成や展開に着目し、書き手の工夫について考えることができる。

(読むこと ウ)

○話し言葉と書き言葉に応じた構成や展開をそれぞれ理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ))

3 評価規準

| 国語への関心・ 意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 読む能力 | 言語についての知 識・理解・技能 |
|--|---|--|---|
| 目的に応じ、話し言葉や書き言葉における構成や展開の特徴を考えようとしている。 | 本文の内容を理解し、本文の内容を条件に合う構成や展開に変えようとしている。 (話すこと・聞くことイ) | スピーチ原稿と本文を見比べ、文章全体の構成や展開の工夫と効果について自分なりの意見を持つようとしている。 (読むこと ウ) | 話し言葉や書き言葉に応じ、構成や展開を考えようとしている。 (伝国イ(オ)) |

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、教科書の本文を「スピーチ原稿」に書き換え、それらを比較することで目的や言語形態に応じた構成や展開を考えるという言語活動を行う。これは、学習指導要領〔第2学年〕の「C読むこと」における(1)「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」の指導事項にあたる。そして、本単元では本文の内容と構成を学習した後、作成した「スピーチ原稿」をもとに、話し言葉による構成や展開と本文である書き言葉の構成や展開を比較する時間を設ける。そうすることで、同じ書き言葉で比較するよりも、より明確に共通点と相違点に気づくことがで

き、それぞれの構成や展開がもつ筆者の意図や工夫を理解できる力が身に付くと考える。さらにスピーチの原稿を考えていくことで「A話すこと・聞くこと」における（1）「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。」を関連付けて指導する一手法として取り入れることができると思う。

教材として、光村図書「国語2」に掲載されている「モアイは語る - 地球の未来」を使用する。本教材は、イースター島における文明の崩壊とその原因を説明していく上で、現在の地球上でも同様のことが起きていると提示し、筆者の主張を述べている。構成も明確であり、序論においては文明の崩壊までの過程を4つの小問題として提示しているだけでなく、「私たちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題を投げかけているのである。」と結論へ関わる問題提示もされている。生徒たちは、序論の部分を注意深く読み取ることで、文章全体の要旨を捉えることができる。

本文は筆者の主張に説得力をもたせるさまざまな工夫が施されている。前述したように序論では伏線的に主張へと導く問題提起を読者に投げかけている。また、本論では時間的経過にしたがって、イースター島の文化の消滅を物語っている。その際に、分析結果や調査結果を詳細に記載することで科学的な根拠を述べている。この緻密な論理の展開こそが説得力をあげる工夫となっている。

本文を「スピーチ原稿」にする際、生徒へは「インターネットの動画配信をイメージし、中学生として不特定多数の人たちに本文の内容を伝える」という状況を設定する。生徒たちにとって身近な状況となった「動画配信」という場面を設定することで、学習した内容が実際生活に関連づいているということを意識させたい。また、「動画配信のスピーチ」と設定することで「不特定多数のどの年代の人たちにも伝わる」ことや「2～3分ほどでまとめること」を念頭におかせて内容の精査に意識を向けさせたい。また、論説文という性格上、読み手に対して筆者の主張をどれだけ伝えられるかが大切だということを考えたときに、主張を明確に伝えることや要点を絞っていくことによって構成や展開が変わってくることを学習できると考える。

（2）本単元で身につけさせたい力

本単元では、文章の構成を踏まえ、論理の展開から筆者の目的や意図を自分なりに見だし、その効果を考える力を身につけさせたい。内容の把握はもちろんのこと、文章の構成や展開を理解し、その必然性を考えながら、より文章を読み深めることができる力を構築したい。また、同内容における「話し言葉」と「書き言葉」の構成や展開の違いに着目し、それぞれがもつ特性や効果を考えることで、それぞれの表現形態に応じた構成や展開があることに気づかせたい。それらを踏まえ、同じ内容の事柄でも、文章で書き表す場合

と口頭で伝える場合ではそれぞれに適した構成や展開があることを意識して、これ以降の「書くこと」や「話すこと」の学習にもつなげられると考える。本単元の学習を通して身につけた能力は、国語科における他領域どうしの連携だけでなく、他教科での応用、また社会生活においても活用できると考える。

(3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

昨年度(第1学年時)は、光村図書『国語1』に掲載されている「ダイコンは大きな根？」において、「序論 - 本論 - 結論」の文章構成とそれぞれの役割について学習している。また「ちょっと立ち止まって」では、筆者の伝えたい事柄を「トリックアート」を使って説明していくという文章の構成や展開を学習しており、今回の学習に密接していると考えるので想起させたい。

また、昨年度はテレビ番組を使用した人物紹介の文章作成やディベートにおけるフロア側の指導など「聞くこと」の指導に重点をおいて取り組んできた。したがって、「話すこと・聞くこと」の学習は一定の関連をもって取り組んできている。

本単元で学んだことは、他教科において感想や意見を述べたり、社会科の新聞づくりや理科のレポートに見られる説明文・報告文の作成をしたりと論理を展開していく場面で有効に活用できる。本単元で学習したことを踏まえ、相手や状況に適した論理の展開を構築していけるようにしていく。

6 単元の指導計画（全4時間扱い）

| 時 | 学習活動と内容 | 指導や支援の手立て ◇評価 |
|---|--|--|
| 1 | <p>○本時の目標確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">本文の構成を読み取ろう</div> <p>○説明的な文章の学習で学んだことを思い出す。 （個人→（グループ）→全体）</p> <p>○「論説文」を読み取るうえで、大切なポイントをまとめる。</p> <p>○範読を聞きながら、文章の構成を考える。</p> <p>○全体で、文章の構成を考える</p> <p>○本時の内容をまとめ、次時の内容を確認する。</p> | <p>・昨年度まで学習した教材名を挙げて、どのような学習をしたか思い出す手立てを示す。</p> <p>・教科書P327～328を見て、思い出す手立てとする。</p> <p>「問題提起」や「モアイの説明」、「主張」部分に目を向けるように指示を出す。</p> <p>◇ワークシートのメモや話合いの内容をもとに、本文の特徴を理解している。（ワークシート）</p> |
| 2 | <p>○前時の学習内容を振り返り、本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">段落の役割を考えよう</div> <p>○段落ごとの役割を考える。 （個人→グループ→全体）</p> <p>○本時を振り返り、次時の内容を確認する。</p> | <p>・第1学年「ダイコンは大きな根？」で学習した「段落の役割」を手立てとして考えるように支援する。</p> <p>◇それぞれの段落の役割を理解している。（ノート）</p> |
| 3 | <p>○前時の学習内容を振り返り、本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">スピーチ原稿を考えよう</div> <p>○段落を入れ替えて、スピーチ原稿の展開を考える。 （個人→グループ→全体）</p> <p>○本時を振り返り、単元の内容をまとめる。</p> | <p>・「スピーチ」の状況と条件を意識するように指導する。</p> <p>◇自分たちなりの意図をもって、展開を考えている。（話合い、ノート）</p> |

| | | |
|-----------|--|--|
| 4 (本時) | ○前時の学習内容を振り返り、本時の学習目標を確認する。 | |
| | 筆者の工夫とその効果を考えよう | |
| | <p>○前回の内容をもとに、原稿を確認する。</p> <p>○出来上がった原稿と本文を比較し、筆者の意図を考える。 (個人→グループ→全体)</p> <p>○本時を振り返り、次時の内容を確認する。</p> | <p>・既習した「話し言葉・書き言葉」の事項を想起できるように支援する、</p> <p>・原稿を作る際に取捨選択した段落を見比べることで、筆者の意図を考えるように指示を出す。</p> <p>◇筆者の論理の展開に着目し、その意図を自分なりに考えることができる。 (話し合い、ノート)</p> |

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

①それぞれの論理の展開について自分なりの考えをもとうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

②文章の構成や展開について自分なりの考えを持つことができる。 【読むこと ウ】

(2) 本時の学習活動

本文と同内容の「スピーチ原稿」を読み比べ、本文の構成や展開の効果を自分なりに考え、理解を深める。

(3) 本時の展開

| 時間 | 主な学習活動と内容 | 指導や支援の手立て（◇は評価） |
|------------|---|---|
| 導入 4分 | ○前時までの学習内容を確認する。 | ・今までの学習過程を想起できるよう支援する。 |
| 課題把握 1分 | 筆者の工夫とその効果を考えよう | ・本時の学習活動を把握し、学習目標を意識できるようにする。 |
| 展開① 15分 | ○本文と書き上げたスピーチ原稿を比較し、変えた部分と変えなかった部分を見つける。（個人→グループ） | ・比較するときに、「順番」と「(取り上げている)内容」でそれぞれ変えた部分と変えなかった部分を考えるようにする。 |
| 展開② 25分 | ○本文の「順番」と「(取り上げている)内容」の効果について、自分なりの考えをもつ。 （個人→グループ→全体） | ・展開①から、それぞれ相手に与える印象や主張への導き方にどのような違いがあるかを考えるように助言する。 ◇本文の構成や展開から、筆者の工夫とその効果を自分なりに考えることができる。 （ワークシート、話し合い、発表） |
| まとめ 5分 | ○構成や展開に違いが生じるのは、目的や条件に違いがあり、そこに伝えるための筆者の工夫があることを理解する。 | ・本時の学習を振り返り、単元全体を通して学習したことを確認し、目標を達成できたか自己評価するよう助言する。 ◇本時の目標に対しての達成度を自己評価できる。 |